

国際私法学会第十一回總會

神戶新聞社

研究報告

昭和二十九年一月三十一日(日)

於 公立法政講習所 池田文雄

「わが国における国籍に関する判決先例の比較法的研究」

中央大学 池田文雄

栗田 三郎

「国際私法における長子特選の成立に関する二つの問題」

東京大学 池田文雄

池田 文雄

總會

池田文雄 (参議院法判事) 執川純吉 (名古屋地裁判事)

和田誠一 (難産士) の講話の入室と承認

国際私法講座の編集出版状況の報告及び

岡本即教授の古牙三卷の執筆に就いての報告

決定

総会親会 干後且時以上り 同所におい、南濱七村迄

盛合理に散会

出席者

久保岩太郎

本浪章幸

江川 善久

川又良也

美才正雄

三浦 正人

山田 鏡一

西 賢

長谷川 理衛

早田 芳郎

岡本 善八

栗田 三郎

池田 文雄

池田 文雄

執川 純吉

川上 太郎

トーマス・シムリック

高橋 武生

和田 誠一

(研究報告者)

(研究報告者)

国際私法学会 第十八回例会

昭和三年五月一日(日)午後一時至九時 東京大学 山上会議所
研究報告

W. W. Cook の「国際私法規範の統一」 島根大学 三浦正人
「国際私法規範の普遍性に因する一考察」

總會

東北大学 折茂豊

三木正次 (難波士) 林脇三子 (慶應大学)

岩崎柏 (同上) 大塚栄一 (东北大学) 谷川久 (东北大学)

長承徳 改訂書籍 (同上) ノーミンセンセン (同上)

懇親会

午後五時頃より同所におきの 開演 山田三良

も出席する七時迄が盛會裡に散会

出席者

池田文雄 池原香雄 岩崎 柏

江川善文 大塚正次 岩龍 雲

折茂豊 川上太郎 久保岩太郎 (研究會)

乃梁田三郎 越川純吉 祐田藤武生

菅方正雄 西賢 長谷川理衛

林脇三子 (研究會) 早田芳郎 本沼章幸

丸岡松雄 三浦正人 山田三良

山平喜一郎 谷川久 大塚栄一

天ヶ崎武勝 トーミンセンセン (研究會) 三木正次

山田三良

国際私法研究会 第十三回例会

神戸経済大学

昭和三十年十一月二日(水) 一〇時—二〇時

京都大学 楽友会館

研究報告

「有価財産の国際的売買における所有権移轉に関するハグ条約草案について」

東京女子 江川英文

池原季雄

「扶養義務に関するハグ条約草案について」

神戸女子 川上右郎

関西大学 本浪章市

總會

場所を懇親会場に移して開き、来秋の学会を神戸女子に於て開催する旨を決議した。

懇親会

午後六時頃より

に於て開催 午後八時

追加盛會場へ散会

出席者

江川英文 加藤一郎 川上右郎 久保岩太郎

桑田三郎 越川純吉 藤原藤武生 溜池良夫

西賢 長谷理衛 杉原とし子 早田若郎

日笠野英一 本浪章市 丸田松雄 島本英夫

西原道雄 三浦正人 山田鏐一 山内嘉一

三木正次 天ヶ崎武勝 和田誠一 我妻栄

池原季雄

神戸経済大学

国際私法学会 第十四回例会

昭和三十一年五月一日(日) 一〇時—一八時

中央大学 旧西園寺邸

研究報告

「国際親子法に關する若干の判例」を讀んで

名古屋大学助教授 山田謙一

「イタリヤや国際私法における裁判管轄権」について

中央大学助教授 梁田三郎

総会

名古屋大学助教授 山本敬三 一橋大学大学院 林場準一

中央大学大学院 澤木敬郎 家庭裁判所調査官 鮫島龍男

の協会の入会を可決。 次々、フルブライト交換教授として

中央大学にある カリフォルニア大学教授ロバート・A・エレンツワイグ

氏を本学会の会員に推すことを可決。

懇親会

エレンツワイグ教授より交歓会と兼ね、山のとおていにおき

て午後四時よりパーティを由催。 同教授のほか

山田、田中、西島等も、我事教授より他の出席があり、抽中

抽中後、午後七時頃閉会。

出席者

国際私法学会

第十五回例会

神戸大学

昭和三年一月一日(水) 九時三十分—一九時

神戸大学

研究報告

フランス国際私法における夫婦財産制の準拠法の決定

岡山女子講師 丸岡裕雄

佛民法第三卷第三項の一考査

京都大学

西賢

總會

鈴木ハワヨ氏

一決

(の)入会者

懇親會

午後五時開始 神戸大学 職員會堂におこな

午後七時開始 盛會禮堂 終了

出席者

林陽澤一 池原孝雄 大郷正夫 川上右郎

川又良也 久保善一郎 桑田三郎 斎藤武生

沢木敬郎 田口晃 西賢 長谷川理衛

林陽一十 本浪章平 丸岡松雄 三木正次

天谷曾武晴 山田馨一 山戸喜阿一

第一六回 總會

前月経済大学

昭和三年五月三日(金) 一〇時—一九時

一橋講堂(矢野記念館)

研究報告

「英米法の遺産管理をめぐりて」 牧野清上の一考案

九州大学助教授 矢野崎 武晴氏

「米回における外国法の適用」

一橋大学大学院 柴場準一氏

總會

理事(監事)は任期満了となったが、再選、更に新理事

として、東北大学教授折茂豊氏が選任された。次は、

専修大学 勝車正晃氏及び一橋大学大学院 海老沢美弘氏
の新入会、フルブライト交換教授及び日米法學交流のため

東京大学法學部に派遣された米回パーバード大学教授
パーサー・ファン・マーレン氏を名譽會員に推すことを可決。

一橋大学法學部長 野田 氏及び吉永教授も出席、吉永教授の
懇親會も開催。

一橋大学法學部長 野田 氏及び吉永教授も出席、吉永教授の
懇親會より引續き、ファン・マーレン教授の他多数教員出席により

一九四三年五月三日(金) 一〇時—一九時

出席者

- | | | | | |
|------|------|-------|---------------|---------|
| 柴場準一 | 池田文雄 | 池原孝雄 | 石川吉右衛門 | 海老沢美弘 |
| 江川英文 | 政龍雲 | 大原繁一 | 岡本善八 | 折茂豊 |
| 勝本正晃 | 川上太郎 | 久保岩太郎 | 越川純吉 | 藤原藤武生 |
| 澤本敬郎 | 須藤次郎 | 関口晃 | 谷川久 | 溜池良夫 |
| 西賢 | 西山重和 | 長谷川理衛 | 林脇とし子 | 早田芳郎 |
| 本浪章市 | 三木正次 | 三浦正人 | 矢野崎武勝 | 矢澤悳 |
| 山本敬三 | 山田鑠一 | 山戸嘉治一 | パーサー・ファン・マーレン | (以上三四名) |

神戸経済大学

第一七回 總會

川村 維沙 氏

昭和三十一年一月十七日(木曜) 一〇時—一九時
用西方子より

〔研究報告〕

「英法における離婚判決の承認に用する最近の三三の判例」

用西方子

本浪 章 氏

「いぬゆる道心問題」

〔總會〕

島根 孝子

三浦 正人 氏

右研究報告会を終了後、引き続き開催。日米
の文化交流の爲め、東京女子大で研究中のシラス・エールマン氏
の入会を可決。その他、別に議題はなかつた。

〔懇親會〕

總會終了後、午後五時過ぎ、女子近くの

旅館にて開催、八時近く盛會裡の散會

〔出席者〕

- 池原 幸雄 川上 太郎 久保 山 右太郎
- 齋藤 武生 沢木 敬郎 須藤 次郎 (退散會より)
- 沼田 良夫 西 賢 本浪 章 氏
- 丸岡 格雄 三浦 正人 山田 鏡一
- 和田 誠一 シラス・エールマン

申言 監學 大

第十八回總會

前月経済大學

昭和三年四月六日(日) 一〇時—一八時
慶応義塾大学 塾監局

〔研究報告〕

「國際私法規定のあり方」

有休動産の口譯の性質と有する売買に因する
口譯私法統一条約案をめぐって

慶応義塾大学

林 脇トシ子氏

Localization objective — パチブルの所論から

東京大学

澤 木 敬 部 氏

〔總會〕

午前(十時半—十二時五分) 質疑応答(十三時—十五時)
午後(一時半—三時半) 質疑応答
一三時半)の研究報告の後引続き開催。名古屋大学助手鳥居淳子氏。入会と満

場一致可決。三十二年度決算報告がなされた。

引続き判例集関係者。打合せが行われた。六月に法務資料として出版する際、この学会の名に於て
する事承認された。

〔懇親会〕慶応大学法學部長前原氏を迎えて六時過ぎ迄なごやかな行われた。

〔出席者〕

- 跡場準一 江川英文 海老沢美広 政藤雲 岡本善八 折茂豊
- 川上太郎 久保岩太郎 香藤武生 鮫島龍男 沢木敬部 岡口晃
- 須藤次郎 谷川久 中村武 西賢 林脇トシ子 早田芳郎
- 本浪章市 丸岡松雄 三浦正人 山田鏡一 山本敬三
- 鳥居淳子 (ラクスール会) (二五名)

第十九回總會

甲南大学

昭和三十三年十月十五日(水) 一〇時—十九時
甲南大学

〔研究報告〕

「イギリス國際私法における離婚裁判管轄権の状況」

広島大学 山本 敬三氏

「國際私法における部分問題の理論」

中矢大学 桑田 三郎氏

〔總會〕

午前(十時—十二時)の研究報告を終え、午後の研究報告(一時—三時)に先立って行われた。早稲田大学比較法研究所助手土井輝生氏の入会と承認。

学会開催回数(年一回とする)についての問題が提出されたが、採択に至らなかった。
〔懇親會〕
甲南大学山戸教授、神戸大学川上教授の即配慮へり、研究報告終了後、中国古銅器展を見学。再び大学の慶り、学生食堂で七時迄 歓談した。

〔出席者〕

- 島居淳子 和田誠一 実方正雄 論議報告者(以上) 岡本善八 三浦正人 川上太郎
- 江川英文 山田鏡一 桑田三郎 林脇トシ子 澤木敬郎 本浪章彦
- 西賢 山本敬三 溜池良夫 ミツ不正次 レックスコイルマン 山戸嘉一
- 土井輝生 岩崎柏 (懇親會のみ)

(以上二〇名)

第二十回総会

神戸経済大学

昭和三十四年四月八日(水) 一〇時—一五時
中央大学会館 二〇四号室

〔研究報告〕

「法性決定の対象問題の意味—ウエングラーの理論を中心として—」

一橋大学 畑場準一氏

「英口口際私法における契約の準拠法」

名古屋大学 鳥居淳子氏

〔総会〕

午前(十時—十二時)の研究報告及び討論と終え、昼食。十二時半より一時迄行われた。

昭和三十三年年度の決算承認。理事及び理事長の重任を満功一致で可決。再選した。

名古屋大学山田教授、一橋大学久保教授より判例集についての報告があった。

〔懇親旅行会〕

熱海龍泉園へ東京発四時三十分の汽車に向い、七時着。一夜を親しく懇親会と

南い。翌朝判例集についての協議。左の事項が承認された。

①判例集の原稿は返却しない。 ②判例集は全口主要大学及び申込のあったもの配布

する。 ③索引・正誤表の作成については山田教授に一任。 ④今後の資料蒐集はカセット

作成の止め、改訂を科学研究所の申請による。 ⑤③に用する費用は法曹会からの

印税と特別会計として用い、これに充てる。 ⑥ケースブック作成については、今後、委員会

による具体的な検討を行う。 ⑦学会費の申渡す月にはこれと ⑧ラビの費用はこれと

〔出席者〕 西賢、本浪章市、鳥居淳子、沢木勲郎、九岡裕雄、桑田三郎、山田鎌一

者藤武主、堀池良夫、川上太郎、以上旅行参加者。 山本敬三、土井輝生、欧龍雲、久保岩太郎

折茂豊、杯脇トシ子、畑場準一、早田芳郎、三ッ木正次、リックスエールマン、岡本善八

実方正雄、池田文雄、中村武(以上研究会のみ) 合計二十四名

神戸経済大学

第二十一回総会

昭和三四年十月十六日(金) 一〇時—一七時

京都大学法経研究室 会談室

「研究報告」

「法例改正の手続について」

神戸大学 川上太郎氏

「米國國際私法の一傾向」

東京大学 池原季雄氏

「総会」

午前の研究報告終了後、樂友会館に於て、懇親昼食会を開き、その間(十三時—二時)天ヶ崎武勝氏の帰朝談等、互にやかましく交歓が行われ、

此同時、総会幹事として、左の事項が報告、討議された。

- 一、江川教授より、学会開催時期と回数について、提案がなされ、結論は得られず。
- 二、久保教授より、学会連合の報告として、ジャパン・アソシエーションの近況。
- 三、山田教授より、判例集、訓令の出版について、報告があり、学会より同題の補助とする。
- 四、ジャパン・アソシエーション・J.S.R.の架橋村が少いことを、学会より同題の補助とする。

「懇親旅行会」 京都東山荘にて、一部が出席者により、夕食会が開かれ、一部はそのまゝ宿泊。研究を兼ねて、夜の更けに、懇話会を、
 尚その際、各大學に判例集を寄贈する場合、送料を申しつけ、学会報告を法例
 改正の経緯をとり、各研究者の研究テーマを申出さる。立教大學澤本敬部氏と
 とすこと、が承認された。

「出席者」 西島彌太郎、島本英夫、鮫島龍男、三ツ不正次、初日誠一、山崎崎和、森田三郎(以上総会幹事)
 久保若太郎、江川英又、斎藤武生、川上太郎、池原季雄、澤田良夫、丸岡松雄、山田鎌一、三浦正人
 本浪章市、天ヶ崎武勝、西島、山本敬三、島居清子、岡本善八、沢本敬部、以上二十三名

第ニニ回総会

昭和三五年五月一日(日) 一〇時—一七時
名古屋大学法学部会談室

〔研究報告〕

〔法例才七條の改正について〕 神戸大学 川上太郎氏
「立法論としての法例才九條」 中央大学 桑田三郎氏

午前一〇時三〇分より十三時迄川上教授の報告があり、三〇分内討論の後一旦休憩
午後二時五分より法務省村岡参事官から 法別審評会について簡単なる
紹介があり、二時半より用ひ討論。三時より五時までは桑田助教授の報告と討論

〔総会〕

午後、研究報告に先立ち、総会が開かれ、左の点が承認された。

一 新入会員。 村岡三郎氏、竹内昭天氏、志水義文氏、西迪雄氏、五十嵐
清久、若澤進 氏の六氏である。 尚岸田華一氏については承認されたが、
入会の意思が明らかでないのを留保。その他出席された会費は支払われぬが、総会
では承認されたものゝ如き。 寺田四郎氏、古瀬村邦雄氏。

二 昭和三十四年度会計報告。 同時に利息問題。三つに、来年度決算の豫神
下、三つが併せて承認された。
三 会費を上げの件。 才ニニ回総会より、会費を二〇〇円に上げた。
〔懇親会。 エクスカーション〕 研究会終了後、東山会館にて懇親会が開かれ、矢沢教授
谷川助教授の帰朝後等七時過ぎまで、歓談した。翌五月二日、会員有志により、
大山城、日本ライン下り、遠足も試みた。主催の雨にも拘らず、楽しい一日であった。

〔出席者〕池原香雄、河原英文、岡本善八、折茂豊川、上太郎、桑田三郎、名保岩太郎、久米三郎、越川武志、矢沢助
島本要夫、堀池良夫、森輝生、島居淳子、西賢本、浪書市丸、岡松雄三、浦心人、矢沢博、山本敏三、山田健一、中村武
村岡三郎、竹内昭天、岸田華一、谷川久志、水義文、寺田四郎、古瀬村

以上二十九名
神戸大学 経済学

第二三回總會

昭和三十一年十月十日(水) 一〇時—一七時
立教大学法学部会議室

〔研究報告〕

「現行法例の成立について」—法典調査会理事録を中心として
青山学院大学 久保岩太郎氏
「Will Testamentary Capacity」を以て論ずる若干の判例について」
京都大学 川又良也氏
「外口判決の承認の事件に関する考察」—民法法二〇〇條の解釈適用九州大学 矢ヶ崎武勝氏
午前中久保教授の報告が十二時半で終り、その後十分間總會。午後一時半より
五時半迄熱心な研究討論が行われた。

〔總會〕 十三時半より四時十分迄 決定事項 左の通り

一 学会連合委員会は引続き久保教授にお助けいただき

一九五九年度のシヤロニアニエールの会務は、沢不動教授に依頼する。

一 来年度春期学会の間催はつことは、意見の交換が行われたいとある。

〔懇親会〕 研究会終了後 立教大学 立教館 教授室においで七時過ぎ迄 立食形
式にシヤロニアで行われた。又五十嵐清 米津道 西迪雄の三新会友が出席された。

〔出席者〕 森場準 五十嵐清 池原季雄 江川英文 坂龍雲 岡本善八
折茂豊 川上太郎 川又良也 久保岩太郎 越川純吉 佐藤信太郎

鮫島竜男 沢木敏郎 谷川久 土井輝生 島居淳子 中村武 西賢
西迪雄 林脇トミ子 早田芳郎 本浪章市 米津道 丸岡裕雄
三木あ次 村岡二郎 矢ヶ崎武勝 山田鏡一

第24回總會

昭和三十六年五月五日(金) 一〇時—一七時

青山学院大学 五号館第3会議室

「研究報告」

午前の部 (一〇・一五—一一・〇五) ……討論 (一一・三三—一一・三五) 座長 川上太郎氏

「外国為替管理法の適用について」 早稲田大学 土井輝生氏

午後の部 (一一・四〇—一二・三〇) ……討論 (一二・三三—一二・三五) 座長 折茂豊氏

「フランス国際私法に於ける夫婦財産制の準拠法」 岡山大学 丸岡松雄氏

「総会 (一一・五—一二・四〇)」

昼食後 午後の研究報告に入る前に行われた。決定事項以下の通り

- 一 理事 (久保江川、川上、青藤、折茂) 監事 (実方) 氏とそれ以外用選する。

二 新入会員として 加藤金造 (東京家政) 畑澤 (同人社会) 日中徹 喜多川 葛

興 (都立大) の四氏の入会と承認可決

三 会計報告と承認

四 雑件として J.S.R. の担当 次期会場 学会共同事務所設置の件について討論し

たが、いづれも結論のむき、特に最後のものは見送ることにした。

「研究討論」 (一一・三〇—一一・四〇)

三時より 同会場にて 国際法協会 日本支部総会が開かれ 一部会費はささげられ

出席者 (江川、久保、川上、折茂等十数名)。その間を利用して 天崎武勝氏「法性決定論

試み」の法政論の題で述べた(ま)論をめぐり討論。

「懇親会」 研究会終了後 栗山協会支部長 堀久 大倉館長 盛大が行われた。

「出席者」 青輝生 江川英文 杯勝ト子 五十嵐清 池原孝雄 加藤金造 川上太郎 趙純吉 久保孝彦

丸岡松雄 藤野均 畑澤 喜多川 喜多川 天崎武勝 村岡二郎 西原 折茂豊 鮫島是男 折藤信太郎

沢不敏 島本英夫 堀池良久 山本敬三 津津 日中徹 折茂 池田文雄 三木正次 本沼幸市 谷川

大野百天 (懇親会のみ) 大倉孝 (研のみ) 神田 經濟大學

才二五回總會

昭和三六年十月十四日(土) 一〇時—一七時
京都大学 法経会議室

〔研究報告〕

予前の部(〇〇〇—一三三〇)

「法律回遊理論の適用範囲について」

座長 川上太郎氏

山本敬三氏

予後の部(一三三〇—三三〇〇)

「国際婚姻法に因するドイツ改正要項について」中央大学

座長 桑田三郎氏

(三三〇〇—四三三〇)

「国際私法における移民の取扱」

座長 折茂 豊氏

東京大学 欧 静雲氏

〔総会〕

(四三三〇—四四〇〇)

次回の本会開催時期場所の事について討議し、その結論がなされた。

〔懇親会〕(五〇〇〇—七五〇〇)

研究会終了後、京都大学芝蘭会館にて、純和風にて行ふ。江川理事長は、ヨーロッパの行方不在のため、久し振りの青藤教授の出席を、同先生の全快を祝して乾盃する。この際、懇話が交された。

〔出席者〕

- 桑田三郎 久保岩太郎 川上太郎 青藤武生 山本敬三
- 折茂 豊 丸岡松雄 三浦正人 林脩ト三子 土井輝生
- 欧 静雲 鳥居涼子 池原季雄 五十嵐清 沼池良夫
- 西 賢 澤木敬郎 川又良也
- 越川純吉 山田鏡一 早田芳郎 (研究会の外)

(以上二一名)

神戸経済大学

第二六回総会

昭和三十七年四月十九日(木) 10時-12時

神戸大学 経済経営研究所 調査室

「研究報告」

(1) 旧法例の沿革

座長

川上 太郎氏

(2000-300)

慶応義塾大学

須藤 俊郎氏

(2) 司法補助条約による東欧諸国の国際私法

座長

池身 香雄氏

規定の統一について (2000-330)

神戸大学

西 賢氏

(3) 法性決定の問題に関する一考察

座長

久保 岩太郎氏

島根大学

三浦 正人氏

「総会」(100-145)

① 会計報告の承認 ② 技術用語審議会委員合審任の長谷川理衛氏に掛せんとす。併

の事後承認 ③ シヤパン・アミアンの執筆者と1960年度沢木敬郎氏1961年度

西賢を指名依頼 ④ 新入会員として小瀬保郎 田村精一 綿引

三也の入会承認 ⑤ 次期会場として慶応大学に依頼

「懇親会その他」

昼食時に記念撮影。研究会及び総会終了後、神戸大学教員食堂にて法学部長八木弘氏

の出席をえて、六時迄なごやかな懇親会が行われた。更にその後有志の者が神戸クラ

ブにおりて八時迄懇親会を続け、研究会の種別紙、学会選定、口説私法

講演を三巻の出版、判例集の継続作業等と同じ討議が行われ、持の④⑤については九月一五日

池原沼池、山田西の四氏からなる特別委員会に研究を依頼し、又⑥については九月一五日

く切の督促とす。こととなつた。 和日誠一 山田鏡一 山本敏三 田村精一 喜多川篤典、三ツ木正次

【出席者】土井輝生、江川英之、杯脇トシ夫、五十嵐清、池原香雄、川上太郎、川又良也、久保岩太郎、須藤俊郎、沼池香夫

丸岡松雄、三浦正人、西賢、岡本善八、小瀬保郎、青藤武生、飯島哲男、沢木敬郎、須藤俊郎、沼池香夫

神戸大学 経済学

の集約の共同研究のテーマ、同席に出席した山田、早田、西、池田の共同研究の結果の発表

方法は、池田、早田の集約の報告を基として、早田、池田と協議した。その結果、山田については、池田、早田

案に基いて、池田、早田、山田、西、早田の協賛校が更に検討すること、山田については、池田よりリスト

への掲載の可能性を打診し、その結果により、池田、川又、西教授より同席に外交雑誌の編集部と交渉

すること、山田については、同席に出席した山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田

を一人候補とする事、山田については、同人誌出版の基博が一志候補にあげられ、法室に集う事、

協賛校の調査、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田

四、懇親会（一七〇〇〇—一九〇〇）

（分衆）

東京、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田、山田、早田、西、池田

五、出席者